

うきたむ

第53号

2019.7.1

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665
URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲日向洞窟遺跡の発掘調査

日向洞窟遺跡範囲確認調査

高島町教育委員会社会教育課 水口 哲

今年度、高島町教育委員会では日向洞窟遺跡の指定範囲拡大を目指して、範囲確認調査を実施しています。日向洞窟遺跡は、4ヶ所の洞窟・岩陰を中心とした6839㎡が、昭和52年に国指定史跡として指定されました。その後、日向洞窟の西側地区(現在の町道部八分)について、町教育委員会が昭和62年から3カ年にわたり調査を実施した結果、数万点に及ぶ石器が出土し、縄文時代草創期の遺物包含層を確認しました。また、平成25年から実施している東北芸術工科大学による町道の西側及び東側の調査においても、西地区周辺への草創期の遺跡範囲の拡大が指摘されたことから、町教育委員会が遺跡範囲を確定させるために、平成28年度から国庫補助事業により調査を行っているものです。平成28年度、平成30年度の調査ではそれぞれ指定範囲の東端、南端を確認すべく調査を行いました。縄文時代草創期の包含層は確認することはできませんでしたが、縄文調査においては西地区のさらに西側に草創期の範囲が延びるのか確認を行う予定です。過去2年間の調査においては、東側、南側については、指定範囲は概ね従来通りと想定されます。今年度の調査結果によって、西地区を含めて指定範囲がどこまで西側に拡大されるのか、興味深いところです。

また、西地区の出土遺物の整理や、過去に洞窟から出土した人骨や動物の骨を現代の技術で分析し、年代測定を進めています。近年の東北芸術工科大学の調査の進展と合わせて、新たな発見や成果が期待されます。

今後、範囲確認調査の成果や、過去の調査検証結果については、随時皆さまにお知らせしていきたいと思っております。

特別テーマ展

「花沢A遺跡と

置賜の縄文時代中期後半の世界」

令和元年6月8日(土)～9月8日(日)

6月8日に開催しました今年度の特別テーマ展は、平成29年度に発掘調査が行われ、この度、報告書が刊行されました米沢市花沢A遺跡の出土品を中心に展示しています。

までの置賜では最も多くの住居跡が見つかった中期末葉の集落跡です。

花沢A遺跡は縄文時代中期末から後期にかけての集落跡で、特に中期末では26棟の竪穴住居が確認され、そのうち14棟から川原石と埋設土器で構成される複式炉が発見されています。これらの住居のうち5号住居跡は直径7.1mで確認面から床面までの深さが1.2mもあり、山形県で見つかった縄文時代の竪穴住居跡の中では最も深く掘り込まれています。また、これ

までの置賜では最も多くの住居跡が見つかった中期末葉の集落跡です。土器や石器も多く出土していますが、今回は4号、5号、9号、12号、13号住居跡と土坑から出土した土器と各種の石器を中心に展示しました。

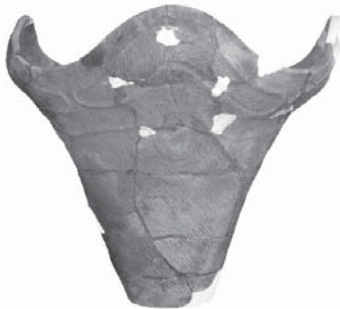
縄文土器は中期末葉の大木10式のもので、その中でも古段階と中段階のものに限られ、深鉢を中心に鉢や注口土器の他、あまり類例のない取手付土器などがあります。

縄文時代中期後葉から末葉の複式炉を持つ住居跡は県内各地域で見つかっていますが、今回の展示では花沢A遺跡とほぼ同時代で置賜にある高島町宮下遺跡、台の畑遺

跡、長井市長者屋敷遺跡の土器も展示しました。

宮下遺跡では大木10式古段階の埋設土器、住居内からは中段階の土器が出土し、台の畑遺跡には今回の展示品で最も新しい大木10式新段階の土器があります。また、長者屋敷遺跡では大木9式新段階から10式中段階までの土器が出土しています。

今回の展示では各遺跡や土器が出土した住居跡について図や写真で説明しています。縄文時代中期後半の住まいや土器の移り変わりを通じ、当時の暮らしぶりを見ていただければと思います。



▲花沢A遺跡出土土器

うきたむ考古資料館イベント紹介

当館では、年間を通して様々なイベントを行っております。その中で「赤ちゃんの手形をつくろう」は、平成13年より毎年ゴールデンウィークに開催している恒例のイベントです。今年は、改元の日と重なり、終わる平成と新たな令和と共にかわいい手形・足形を思い出しに残そうとたくさんのお子様とご家族の方に参加していただきました。おかげさまで平成31年4月30日から令和元年5月5日の6日間で1120個という過去最高の手形数となりました。

その他にも「勾玉・弓矢・石器をつくろう」や「ガラス玉をつくろう」「古代風ブレスレットをつくろう」など親子で楽しめる体験イベントがあります。滑石というやわらかい石を削って作る勾



▲赤ちゃんの手形をつくろう

第27回企画展

「縄文時代後期の山形」

令和元年9月14日(土)～12月1日(日)

第27回企画展は「縄文時代後期の山形」と題し、近年、資料が充実してきた県内の縄文時代後

期に焦点を当てることといたしました。遺跡数も多く、竪穴住居の数では他の時期を圧倒する縄文時代中期後葉から一変し、遺跡数も減少しま

す。東日本各地の影響を受けた土器が出土する後

期初頭から前半、地域的に相違があるものの東日本に大きな文化圏を形成

する後期中葉、それから東北では瘤が付く土器が目立つ後期後葉を経て晩

期へと変遷します。

第一章では「住まいと土器の変遷」とし、後期の竪穴住居跡や掘立柱建

物跡を図や写真で紹介す

るとともに、後期の土器がどのような変遷を辿ったかを土器の展示をとおして示します。

第二章は「墓とその変遷」とし、後期のお墓を

図や写真で紹介すると共に、副葬品と考えられる遺物や埋設土器を展示します。人骨が出土した後

期のお墓は県内で1基検出されているだけですが、状況証拠などからお

墓と考えられる遺構と出土品を紹介します。

第三章は「後期の食料事情」とし、生産用具で

ある石器や植物遺体や動物遺体を通して、この時期の人々が何を食べていたのか、どのようにして食料を獲得していたのかを探ります。

第四章は「後期の物流と交流」として、特定の地域に産する、あるいは、特定の地域にしか見られない出土品をとおして、縄文時代後期の地域間交流を探ります。

第五章は「祈りと装飾」として、後期になると出土例が多くなる「土偶」や身体を飾った「装飾品」、「漆製品」を展示します。

今回の企画展では山形県の縄文時代に焦点を当て、検出された遺構や出土品を通じ住まい、土器、お墓の変遷や、食料とそれを獲得する方法、地域間交流、精神生活などを考えてみたいと思います。多様な資料を展示する予定ですので、ぜひ御覧いただきたいと思

います。

鈴木亜美に代わりまして昨年十一月より菅原仁美、二宮徹郎に代わりまして今年度より浅野美和が着任いたしました。新体制でがんばっていききたいと思

います。

今年度もよろしくお願

い致します。

今年度もよろしくお願

い致します。

今年度もよろしくお願

い致します。

今年度もよろしくお願

い致します。

今年度もよろしくお願

い致します。

今年度もよろしくお願

い致します。

今年度もよろしくお願

い致します。

今年度もよろしくお願

い致します。

今年度もよろしくお願

い致します。

催し物のご案内

今後の催し物です。興味のあるものがございましたら、ぜひ足をお運びください。
(詳細はお問い合わせください。)

- ◇特別テーマ展開連講座 7月7・14日(日)
- ◇大人の自由研究 7月20日(土)・12月14日(土)
- ◇勾玉・弓矢・石器をつくろう！ 7月13日(土)・11月3日(祝)
- ◇スクールオブジョウモン 8月10日(土)
- ◇第27回企画展 9月14日(土)～12月1日(日)
- ◇第21期考古学セミナー 9月29日・10月6日・13日(日)
- ◇秋の遺跡めぐり 10月5日(土)
- ◇企画展記念講演会 11月17日(日)
- ◇ガラス玉をつくろう！ 11月30日(土)
- ◇カラムシで布をつくろう 11月30日(土)
- ◇考古資料検討会 2月9日(日)

よろしくお願いたします



鈴木亜美に代わりまして昨年十一月より菅原仁美、二宮徹郎に代わりまして今年度より浅野美和が着任いたしました。新体制でがんばっていききたいと思

います。

今年度もよろしくお願

い致します。

川井観音（和江山桃源院） 米沢市●中世

今年は置賜三十三観音の御開帳の年になっておりますので、二十三番札所である川井観音をご紹介します。

川井観音は米沢市川井に位置する曹洞宗の寺院、和光山桃源院の境内にあります。

桃源院の創建は天文13年（1544）に、伊達晴宗・輝宗・政宗の3代に仕えた伊達家の重臣である左月斎良直（茂庭・鬼庭良直）が開山したのが始まりとされます。左月斎良直は陸奥国伊達郡茂庭村（現・福島市飯坂町）から、伊達輝宗の命により出羽国置賜郡長井郷米沢川井村に移る事となり、日頃から信仰していた観音堂も当地に移しました。観音堂の創建は鬼庭（茂庭）家の始祖とされる斎藤実良の時代に周辺住民に悪さをした大蛇を征伐する事になり、人身御供として家臣紺野凶書の妹（さる姫）を差し出しました。その際、母から授けられた観音像の霊力により見事大蛇を討ち果たし、さる姫も無事だった事から、さる姫

は茂庭村地蔵岩に観音像を祀る観音堂を創建し尼となり生涯守ったと伝えられています。桃源院は鬼庭（茂庭）家の縁の寺院として庇護され、茂庭良元の代の慶長8年（1603）に松山城（宮城）と慶長10年（1605）に桃源院を城下に移し、当地の桃源院はその後住民らの手によって再興されました。現在の桃源院観音堂は弘化2年（1845）に再建されたもので入母屋、銅板葺、平入、桁行3間、梁間3間、正面1間向拝付、向拝木鼻には獅子と象、欄間に龍の精緻な彫刻が施されています。本尊は羽黒聖観世音菩薩像で、秘仏とされています。伝説によれば、その昔、百姓がある朝、羽黒川で光る1本の霊木を見つけました。その日の夜、夢枕に仏様が現れてお告げを受け、その木を川から探し出して三体の仏像をつくり、笹野・関根・川井に安置したとされ、川井の観音像は根元の部材か



▲ 川井観音

ら彫刻されたので「根木観音」との別称があります。一説では、羽黒山に納められ神仏分離令により当寺に移されたともいわれています。観音様は人々の苦しみを代わってお受けする身代わり観音とも呼ばれ、また、根木ⅡネギⅡ風邪を治す事にちなみ風邪予防に御利益があるとして信仰されています。

桃源院境内には安政6年（1859）に建立された芭蕉句碑があり、松尾芭蕉が貞享5年（1688）「笈の小文」で詠んだ「しばらくは花の上なる月夜かな」の句が刻まれています。

我が館の展示品 (41)

隆起線文土器

縄文時代

● 高島町 日向洞窟

隆起線文のついた土器片が発見されたのは、高島町にある日向洞窟遺跡です。

隆起線文土器は、土器の口縁部や胴の上部に粘土紐めぐらせた土器で、縄文時代草創期にみられる土器です。

この土器は発見当初、日本最古の型式の土器とされましたが、現在では研究が進み、さらに古い時代の土器があったことがわかっていきます。



刊行予定!

特別テーマ展

「花沢A遺跡と置賜の縄文時代中期後半の世界」



特別テーマ展の内容をまとめ、図録を刊行いたします。展示資料の写真やパネルの図版をふんだんに使用し、展示内容をオールカラーでより詳しく、わかりやすく解説いたします。

詳細は、当館までお問い合わせください。

展示遺跡

- 米沢市 花沢A遺跡
- 高島町 宮下遺跡
- 高島町 台の畑遺跡
- 長井市 長者屋敷遺跡